

会議議事摘録

会議名	2019年度第1回学校関係者評価委員会
開催日時	2019年7月14日(日曜日)10:00~12:15
場所	本校7階 研修室
出席者 (敬称略)	<p>①委員：赤塚敦子(看護関連業界関係者)、石川幹夫(卒業生)、磯田眞美(保護者)、伊藤由紀(高等学校関係者)、篠塚 功(医療事務関連業界関係者)、保坂正春(記録事業業界関係者)、宮武正秀(福祉関連業界関係者) (計7名)</p> <p>②学校：橋本正樹(校長)、宮下明久(事務局長)、小田真理子(字幕制作・速記者養成科学科長)、村山由美(医療秘書科学科長・医師事務技術専攻科長)、深澤由紀子(医療秘書科副学科長)、中村博臣(くすり・調剤事務科学科長)、岩上由紀子(介護福祉科学科長)、熊谷 崇(介護福祉科教員、教務副委員長)、宮嶋貴与(鍼灸医療科学科長)、前田律子(看護科担当副校長・学科長)、伊東由美(看護科副学科長) (計11名)</p> <p>③事務局：松本晋圭、土屋瑠美子、手塚理恵子 (計3名)</p> <p style="text-align: right;">(参加者合計21名)</p>
欠席者	樋本 慶(くすり関連業界関係者)、黒田 潔(医療マネジメント科学科長・診療情報管理専攻科長)、三宅かおり(医療マネジメント科副学科長・教務委員長)
配付資料	<p>①事前送付：</p> <p>□資料1：2019年度学校関係者評価委員会名簿、□資料2：平成30年度第3回学校関係者評価委員会会議議事摘録案、□資料3：平成30年度第3回委員会以降の主な経過報告別添A：2019年度校務分掌、別添B：2019年度学事日程・オープンキャンパス日程、別添C：2019年度クラス担任一覧、別添D：平成30年度進路決定状況/平成30年度求人件数、別添E：2019年度WCSPの年間計画例(医療秘書科)、別添F：2019年度教員研修計画・実績、別添G：2019年度授業公開実施要領、別添H①~④：2019年度生入学前指導プログラム関連、別添I：2019年度前期授業アンケートの実施計画、別添J：2019年度医療事務分野・福祉分野教育課程編成委員会名簿、□資料4：平成30年度活動の自己評価報告書 点検大項目、資料5：平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み、□資料6：2019年度の重点目標と達成するための計画・方法</p> <p>②当日配付：</p> <p>□2019年度学生生活ガイド(看護科以外、看護科)、2019年度講義要項(全学科)、2019Challenge就職活動ノート、2020年度入学案内書、2020年度募集要項(看護科以外、看護科)、2019年度授業公開 授業参観状況の中間報告、高等教育の修学支援新制度について</p> <p>③当日回覧資料：</p> <p style="text-align: center;">回覧資料：平成30年度活動の自己点検・自己評価報告書(点検中項目)</p>

<p>議題等</p>	<p>1. 今年度委員の確認（資料1）及び本校新任者の紹介（説明者：事務局松本）</p> <p>2019年度より、石川委員、磯田委員、伊藤委員、篠塚委員が新たに就任された。保坂委員、赤塚委員、樋本委員、宮武委員は継続してお願いしたとの説明の後、各委員より自己紹介があり、その後、本校新任者について事務局より紹介があった。</p> <p>2. 校長挨拶</p> <p>高等教育をめぐっては、4月に専門職大学が開設され、来年からは高等教育の一部無償化が始まる。これに対応するために教育の質保証と情報公開が求められており、その前提となるものが学校の自己点検・自己評価だが、本校では機関別評価の意味合いを持つ学校関係者評価委員会と、分野別評価の側面で医療事務分野と福祉分野で教育課程編成委員会を置いている。次年度に向けて看護科を職業実践専門課程に申請するため、8月に看護分野の教育課程編成委員会も立ち上げる予定である。</p> <p>専門学校は、一条校並みに専門職大学に参入するところもある一方、専門学校ならではの自由度を發揮しようという学校もある。本学園は短大も併設している一条校であることから、教育の質評価、情報公開は積極的に行っている。学校関係者評価委員会は今年度3回予定されているが、委員の皆様には学校のサポーターとしてのご意見をいただきたい、との挨拶が行われた。</p> <p>3. 学校関係者評価委員会について（説明者：宮下事務局長）</p> <p>学校関係者評価委員会は、学校の教育、運営がきちんと行われているかどうかをチェックし、改善につなげていく役割を持つ会議である。具体的には、本校の自己点検・自己評価の活動について改善のためのヒントやアドバイスをいただき、PDCAサイクルによる取り組みが機能しているかを確認していただくことになる、との説明が行われた。</p> <p>4. 前回委員会議事録の確認（説明者：保坂委員長）</p> <p>前回議事録（資料2）について訂正等がなければ、公開等の準備を進めたい旨の発言があり、特に異議なく、確認、了承された。</p> <p>5. 平成30年度第3回委員会以降の主な経過について（説明者：橋本校長、宮下事務局長、熊谷教務副委員長、事務局松本）</p> <p>平成30年度第3回委員会以降の主な経過について、資料3に基づき報告の後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p> <p>6. 平成30年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について</p> <p>7. 平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みについて</p> <p>保坂委員長より、基準の大項目ごとに意見を伺うのではなく、資料4と資料5を合わせ、全体として意見交換をしたいとの説明の後、質疑応答、意見があり、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。</p>
------------	---

8. 2019年度の重点目標と達成するための計画・方法について（説明者：橋本校長）
資料6に基づき説明が行われた後、質疑応答が行われ、確認、了承された。詳細は別紙のとおり。

9. 意見交換など

次第6.7と兼ねた質疑応答が行われた。

10. 次回日程、その他

事務局松本より、次回は11月中を予定、改めて日程調整に協力を賜りたい旨、説明が行われた。

最後に、保坂委員長より、本日の委員会質疑への謝辞が述べられた後、閉会した。

以上

2019 年度第 1 回学校関係者評価委員会の主な討議内容

5. 平成 30 年度第 3 回委員会以降の主な経過について

○橋本校長、宮下事務局長、熊谷教務副委員長、事務局松本より資料 3 に基づき、以下の報告が行われた。

1. 2019 年度の組織運営関連

- ・2019 年度校務分掌（別添 A）
- ・2019 年度学事日程・オープンキャンパス日程（別添 B）

2. 学生の状況関連

(1) 退学の状況

- ・平成 30 年度の重点目標として、年間の退学率 3.5%以下を引き続き設定して退学防止に取り組んだ。

(2) 入学の状況

- ・2019 年度クラス担任一覧を参照（別添 C）

(3) 就職活動の状況

- ・各学科の学科運営計画に内定目標数値を明記して取り組んでいる。
- ・平成 30 年度進路決定状況／平成 30 年度求人件数（別添 D）
- ・2019 年度キャリアサポートプログラムの年間計画例（医療秘書科）（別添 E）

3. 教務委員会関連

(1) 2019 年度教員研修計画・実績（別添 F）

- ・職業実践専門課程の認定要件に基づく研修及び教務委員会主催の外部講師委託研修を実施。

(2) 2019 年度授業公開（別添 G）

- ・公開者：常勤教員と参加協力を得た兼任講師
- ・参観者：常勤教員、事務職員と参加協力を得た兼任講師

(補足説明：熊谷教務副委員長)

- ・教員のインストラクションスキルの向上を目的に、教務委員会が管理・運営して実施している。
- ・公開者、参観者ともレポートで内容を報告し合う形をとっている。

(3) 2019 年度生入学前指導プログラム（別添 H①～④）

- ・スクーリングを実施、看護科は公募推薦合格者を対象

(補足説明：熊谷教務副委員長)

- ・AO入試の入学者の退学が多い状況から 2 年前から実施。今年度は看護科の公募推薦入試の合格者を対象者に加えて実施した。

- ・内容は、スクーリング I（関係づくり）とスクーリング II（各学科の専門分野への導入）に分かれている。

4. 授業アンケート関連

(1) 2019 年度前期実施計画（別添 I）

- ・集計報告 授業科目担当者に単純平均値と自由記述を 2 週間後に報告
- ・結果のフォロー コメントシートに記述して 8 月末までに学科長に提出

(補足説明：事務局松本)

- ・アンケートの集計結果は、第 2 回学校関係者評価委員会で報告する。

・コメントシートは、授業アンケートの集計結果を見てどう思ったか、どう改善していくかを記入して授業改善に役立っているものである。

5. 自己点検・自己評価関連

報告資料名	記述者	参照
①平成30年度活動の自己点検・自己評価報告書（点検中項目）	各担当	回覧
②平成30年度活動の自己評価報告書（点検大項目）	事務局	資料4
③平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取組の進め方	各担当	資料5
④2019年度の重点目標と達成するための計画・方法	校長	資料6

6. 職業実践専門課程関連

	医療事務分野教育課程編成委員会	福祉分野教育課程編成委員会
認定学科	平成25年度：医療秘書科、医療マネジメント科 （診療情報管理専攻科、医師事務技術専攻科）	平成28年度：介護福祉科
2019年度 委員構成 （別添J）	外部委員：4名 本校委員：校長、学科長、副学科長、教務委員長、 事務局長	外部委員：2名 本校委員：校長、学科長、学科教員、 事務局長
第1回	・7/30（火）15:00～17:00	・7/23（火）15:00～17:00
主なテーマ	1. 委員会における意見、提案への取組について 2. 2019年度の教員研修計画・実績について 3. 2019年度の教育活動と学科運営について 4. 2020年度カリキュラムの編成について 5. その他	

*看護分野…2019年度より教育課程編成委員会を実施、2020年度職業実践専門課程申請予定

*くすり・調剤事務分野…2020年度より教育課程編成委員会を実施、2021年度職業実践専門課程申請予定

7. その他

・高等教育の修学支援新制度（高等教育の無償化）

・6/28（金） 申請受付開始

・7/25（木） 申請締切り

・9/15（金）頃 対象機関公表予定

（補足説明：宮下事務局長）

・授業料等減免（新規）と給付型奨学金（拡充）を柱とする制度で、対象者の範囲が段階的に設定されている。支援対象者及び学校側ともに認定要件があり、本校も申請の準備をしている。

・初年度でもありタイトなスケジュールで進行する。進路選択のタイミングと合致するかも懸念される。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
□就職希望者に対する就職希望率の算定方法が、学科ごとに違っているのはなぜか。鍼灸医療科の「就職希望せず」は、家業を継ぐことを前提として就職希望率に入れているのか。	□企業からの推薦者で、そのままその企業で働くということで就職希望率に入れている。家業を継ぐのと同様の意味合いと判断している。医療マネジメント科は、診療情報管理専攻科に進学している学生の数を分

<p><input type="checkbox"/>隠れている数字を表してもらいたい。卒業予定者数から進学希望の人を除いた人たちが就職希望者だから、書く欄も変えたほうがよい。</p> <p><input type="checkbox"/>10項目の自己評価報告書があるが、この評価基準については何か決められたものがあるのか。</p> <p><input type="checkbox"/>達成状況をABCの評語やパーセンテージで表すことはしないのか。</p> <p><input type="checkbox"/>結果を数値で示すなど、問題があるかないかが一目見てわかるほうが見やすいし、改善すべきこともわかると思う。</p>	<p>母に入れている。その他の学科については次回までに確認して報告する。</p> <p><input type="checkbox"/>次回までに検討して報告する。</p> <p><input type="checkbox"/>私立専門学校等評価研究機構が、文部科学省が出している基準をベースに項目をまとめている。</p> <p><input type="checkbox"/>私立専門学校等評価研究機構の基準に沿って評価を行うため、そのような方法では行っていない。</p> <p><input type="checkbox"/>私立専門学校等評価研究機構の基準に沿って行うため、難しい。</p>
--	--

6. 平成30年度活動の自己評価報告書（点検大項目）について（資料4）

○保坂委員長より、基準の大項目ごとに質問・意見をいただく形で進行する旨の説明があった後、事務局より、基準の構成、点検項目等について説明が行われた。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

（1）基準2：学校運営

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>入学前のスクーリングは友達づくりを目的としているが、年齢的なことを考えると必要であるのかやや疑問を感じた。何か課題を出し、自分の言葉で意見を述べ、ディスカッションをする場を設けて自発性を養うことも行った方がよいのではないか。</p> <p><input type="checkbox"/>学生の反応はどうだったのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>今は高等教育機関でも面倒見のよさが売りになっている。二十歳前後の人も印象としては以前より子どもなので、フォローや退学者防止という視点も含めて実施している。授業では課題を設定し、問題意識を持ちながら話をする形のアクティブラーニングを展開している。</p> <p><input type="checkbox"/>自発性を養うという点においては、キャリアデザインの授業を大幅に改定し、社会性を身につけること、自分の言葉で発信していくことを盛り込んだ。</p> <p><input type="checkbox"/>医療秘書科のアンケートを見ると、非常に有効であったと言える。2部構成で、1部は周囲との関係づくり、2部は各学科に分かれて専門教育の導入を目的としている。友だちができない、居場所がないという悪循環を減らしていく上では有効かと思う。</p>

(2) 基準4：学修成果

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>基礎学力の低い学生に対して指導方法の工夫が必要であると書いてあるが、専門学校の勉強が大学・短大と変わらないレベルであることの認識が高校教員も薄く、適切に指導されていないため、学力不足でついていけない学生がいるのではないか。保護者も含めて、オープンキャンパスの時点で専門科目の大変さをアピールしてもよいのではないか。</p> <p><input type="checkbox"/>高校ガイダンスの件数や参加者の推移はどうか。</p> <p><input type="checkbox"/>専門学校はプロをつくる場所なので厳しいということを子どもには言い続けてきたが、入ってみて、体育祭や学園祭があったり、休みが多いことに驚いていた。甘くなくてよいので、専門学校の厳しさをもっと発信してもよいと思う。</p>	<p><input type="checkbox"/>本校の教育分野は学力がある程度必要だが、難しいというと入学者が減ってくる面もある。本校では勉強のサポートを丁寧にやっている。</p> <p><input type="checkbox"/>件数は若干減ってきている。時期も早期化し、3年生対象の説明会を行わない学校も出てきている。</p> <p><input type="checkbox"/>卒業生委員の在学中と比較すると、現在は年間授業週数が30週に減っている影響もあるかと思う。</p> <p><input type="checkbox"/>看護科、国家試験学科はライセンスを取らなければ意味がないので、覚悟をもって入学してきてほしいとオープンキャンパスでも厳しく言っている。看護科は、公募推薦の入学者たちの底上げを目的に入学前プログラムに参加させたこともあるが、今は指定校も一般入試も含めて入学前学習を実施している。楽しく3年間過ごして資格が取れるという考え方で入ってくるときついものがある。</p>

7. 平成30年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みについて（資料5）

○保坂委員長より、時間の関係もあり、この後の進行は次第6の残りとして7を合わせて、意見交換という形で行いたいとの説明があり、了承された。

○委員からの質問と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/>自己評価を点数化しないと、どこが課題になっているかが見えにくい。例えば、今年特に重点的な課題と考えている部分はどこか。</p> <p><input type="checkbox"/>学生の評価は、テストの点数だけで決まってい</p>	<p><input type="checkbox"/>学科ごとに作成している学科運営計画の中では点数評価もしている。専門学校の学びはどうあるべきかをこれからの課題として捉え、職業人としての成長の第一歩という視点から評価のあり方も工夫が必要だと思っている。</p> <p><input type="checkbox"/>シラバスの中で評価基準が授業ごとに定まってい</p>

<p>るのか。一人一人の課題達成能力や対人関係能力に関する評価はないのか。</p>	<p>る。ペーパーテストだけで評価するものは少なく、出席点を加味したり、質的な部分の評価もしている。今後は、アクティブラーニング等、授業の中身を変えていく中で、有効な評価の仕方を検討したい。今、模索中である。</p>
<p><input type="checkbox"/>常勤教員、専任教員、兼任教員等、教員の名称はどのような定義になっているのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>常勤教員、専任教員は各学科に属して担任を持ち、週 4～5 日必ず学校に来ている。兼任講師、非常勤講師は、その授業ごとに来る先生である。</p>
<p><input type="checkbox"/>外部の先生方も教職員研修に参加しているのか。</p>	<p><input type="checkbox"/>時間の都合がつかず、参加いただけないのが実態である。</p>

8. 2019 年度の重点目標と達成するための計画・方法について（資料 6）

○橋本校長より資料 6 に基づき以下の説明が行われた。

・従来から掲げている目標を今年度は一段進めていきたい。

① T P C の育成と強化

アクティブラーニングの積極的な導入等を通して、ペーパー的な学力だけでなく、職業人としての能力を育てていきたい。退学防止という意味でも、学ぶことの楽しさを実感できる指導を工夫していく。

② 学び直し等の教育プログラムの開発

A I など技術の進歩は早いことから、社会に出てからの学び直しの場を用意する。卒業生支援講座をきっかけとして、休日・夜間の校舎の活用という意味も含めて充実させていきたい。

③ ビジョンの共有とアクションプランの策定

変化に対応していくためには、教職員間のベクトルの共有が必要になる。いろいろな専門分野がある上に、教育業界は社会の変化に対して疎い面もあるので、よい人材を育てていくためにどんな教育が必要か、一段高い視点で状況を把握し、5～10 年後の学校を見据えながら進めていきたい。

○委員からの質問・意見と回答は次のとおり。

委員からの質問・意見	質問・意見への回答
<p><input type="checkbox"/> 専門職短期大学、専門職大学についてはどのように考えているのか。</p>	<p><input type="checkbox"/> 専門職大学は、申請のあった 16 校のうち認可されたのは 3 校（大学 2 校・短大 1 校）という厳しい結果だった。 本校としては、無償化の条件にもつながる職業実践専門課程を中心にやっていきたい。</p>
<p><input type="checkbox"/> 高等教育の無償化は、その対象にならないと高校生から選ばれない学校になると思うので、きちんと対応してもらいたい。</p>	<p><input type="checkbox"/> ご意見として伺った。</p>

以上